森林レンジャーがゆく（63）

しましま尻尾くんと赤いハサミと

濁った池に留まるアメリカザリガニ

この季節に多摩川を訪ねると、ブラックバスやアカミミガメを見かけます。また、川の近くの林では、どこかの公園や緑地を目指し、急いで羽ばたくホンセイインコが見られます。さらに、やぶの中では、ガビチョウが姿を見せないで鳴いています。気づくと日本の自然には外来種の存在が目立っています。そして、外来種が目立つ日本の自然は、今や当たり前となってしまいました。

今年も、３月にトウキョウサンショウウオの調査を行いました。調査の一環で、複数の産卵場所の整備やアライグマ・ハクビシンの捕獲を行った結果、トウキョウサンショウウオだけでなく、水辺を好む他の小動物を守れた場所があります。しかし、あきる野は広く、保護活動が行き届かない場所の方が多い状況です。近年、アライグマやイノシシの増加によりトウキョウサンショウウオなどの両生類は激減しましたが、更に両生類の存在を脅かす存在がいます。アライグマと同じく外来種であるアメリカザリガニです。あきる野では、トウキョウサンショウウオなどの産卵場所に住み着き、元々生息していたほとんどの在来種を絶滅させている場所も確認できています。昭和の頃から、湿地や沼地、農地などの水たまりで普通に生息するようになったアメリカザリガニは、一度拡散すると完全に駆除をすることは非常に難しく、場所によっては不可能となります。スペインでも同じ現象を見てきました。外来魚類やカメ類などにより在来種の個体群が絶滅し、アカミミガメやアメリカザリガニをよく見掛けるようになりました。グローバル化が進むこの世界で、副作用のような出来事です。

私から言えるのは一つだけです。ペットを飼っている方は、その命を大切にし、最後まで面倒をみるようにしてください。自分の都合で野に放つことにより、重大な環境問題だけでなく、アライグマのように人間にも危険が及ぶ大きな影響があります。

（パブロ）